

# ピンチをチャンスに変える

大分政経懇話会10月例会

松田智生氏(三菱総研 主席研究員)講演



松田智生氏(右上)の講演に耳を傾ける参加者=13日、大分市のトキハ会館

大分政経懇話会10月例会が13日、大分市のトキハ会館であり、三菱総合研究所主席研究員の松田智生氏が「ピンチをチャンスに変え

る生涯活躍のまち」と題して講演した。

「生涯活躍のまち(日本版CCRC)」は元気なシニア世代を地方に呼び込み、医療や介護、生涯学習などの拠点をつくる構想。実現は誤解や先入観を取り除くことから始まるとして

「移住で高齢化が進むと捉えるのではなく、CCRCでまちに雇用と経済効果が生まれるという『逆転の発想』がピンチをチャンスに変える」と主張した。

CCRCの実現に向け、全国約260の自治体の手を挙げていることから「今後はアクティブシニアの誘致合戦が始まる。数ある自治体の中から選ばれる大分でなければならぬ」と強調。CCRCは目的ではなく手段として「ハコモノをつくることではなく、移住者の貢献欲求・承認欲求を満たすコミュニケーションの創出であるべきだ」と述べた。

松田氏は1966年生まれ、東京都出身。慶応義塾大学法学部を卒業。2010年に三菱総合研究所の新たな政策提言プロジェクト「プラチナ社会研究会」を創設。日本版CCRC構想有識者会議委員など産官学のアドバイザーを務める。白津会場は14日正午から臼杵市の喜楽庵で開かれる。(講演要旨は15日付朝刊に掲載)